

## 抄鳴雷

2019.5.28

目を輝かせて話す  
姿は2年半前と変わ  
らない。宇都宮市の  
リキキュール製造販売  
「栃木リキキュール」

代表取締役の原百合子はらゆりこさん  
(37)。変わったのは、夢が現実にな  
った点だ▼2016年からス  
タートした栃木銀行のビジネス  
プランコンテストで、初代の最  
優秀賞に輝いた。バーテンダー  
時代、カクテルで使われるリキ  
キュールの着色料や添加物でアレ  
ルギーを起こした。無着色で地  
元農産物にこだわったものを作  
りたいと臨んだ▼今年2月、イ  
チゴやユズなどを使った製品の  
販売・出荷にこぎ着けた。ラベ  
ルのデザインなどを含め、1人  
で製造に当たる。市内の小さな

工場には出来上がった瓶が所狭  
しと並ぶ。販売促進に手が回ら  
ず「こんなになんて作って売れるのか」  
と慌てる日々が続く▼それでも  
「楽しい」と笑顔を見せる。複  
数の製品が早くも国際大会で入  
賞するなど高い評価を得、自信  
を深める。一方で、融資の返済  
が始まった。試練の時が幕を開  
けた▼地方が低迷する中、起業  
が経済の活性化を導くと言われ  
る。課題は起業そのものより、  
5年後10年後、事業が地元根  
付くことができるかどうか。行  
政や金融機関などの支援が鍵を  
握る▼原さんのリキキュールは決  
して色鮮やかではない。着色料  
の代わりに原さんの情熱を溶か  
し込んだ素晴らしいカクテル  
が、いつか全国に広まればいい。